

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 洛和会	代表者	矢野 一郎	法人・ 事業所 の特徴	母体は京都市山科区にある音羽病院の介護事業部門の施設。同会においては市内で 5 番目、平成 26 年 4 月にここ竹田・住吉学区で初めての小規模多機能サービスとして設立。「地域に頼りにされる施設」をモットーに日々、取り組んでおります。また月々定例の催しを開催して活発な地域交流が自慢の施設です。
事業所名	洛和小規模多機能 サービス伏見竹田	管理者	石野 和宣		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	2人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	サービス評価に関しても複数回になるので慣れてはきているが同じ評価の繰り返しにならないように意見を出し合い評価している。	ミーティング等を通して意見をだしあえる機会を作れている。職員によっては内容が理解出来ていない事もある。	会議等を通して職員同士意見を出し合っているが、どうしても評価内容に関しては似たものが多くなってしまふ。	1人1人が意見を出し合える、発言がしやすい環境を作る。また分からないことなど聞きやすい環境を作る。
B. 事業所のしつらえ・環境	誰もが入りやすい明るい事業所づくりを継続して行っていく。挨拶が積極的にできる。	施設内部は比較的整頓し綺麗にできているが、駐車場など施設の外までは出来ていない事がある。	現在は新型コロナ対応の為、地域の方の出入りはないが、ゴミ箱を作って持って来てくださり地域の方には認知されている。 その他、特に問題はなし。	イベントなどで来られた時やお話に来られた時などに気持ちよく過ごして頂ける環境を作る。
C. 事業所と地域のかかわり	イベントの告知など地域に向けて積極的にいき、地域に向けて事業所を知って頂くとともに気軽にいらして頂ける事業所づくりをする	地域の方とも顔馴染みとなっており、挨拶や会話なども自然と出来ている。気軽に相談出来る場作りが必要。	吹き矢の行事やカフェなどを通して、地域に事業所を知ってもらうことはできている。来られた方に対しても挨拶できている。	吹き矢やカフェを通して地域の方にも気軽に声をかけてもらったり、来て頂いたりしている。今後は地域の方からの相談など気軽に話をしてもらえような関係性を作ることが必要。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ご利用者と散歩に出かけたり、地域のイベントに出かけたりすることが少ないので積極的に出かけられるようにする。	外出行事以外で外出する機会はまだまだ少ない。散歩など簡単な外出も取り入れる。	地域の方に事業所に来てもらうだけでなく利用されている方も地域のイベントなどに参加してもらえれば	地域の方に来てもらうばかりではなくご利用者にも地域で過ごして頂くうえで散歩などでもいいので地域に出ていく機会を作っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事業所のことだけでなく地域の心配事などを気軽に話し合える場所を作る。管理者以外の職員も参加する。	地域のことなど話し合う機会があまり作れていない。施設のことを話す事が中心となっている。	事業所の取り組みなどは説明できている。地域の心配事や取組などの内容が少ないことがある。	事業所のことだけでなく地域の心配事などを気軽に話し合える場所を作る。管理者以外の職員も参加する。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練にも参加し、地域と協力して防災対策に取り組む。	職員の人員の加減で今年も地域の防災訓練に参加することができなかった。次回は参加できるように勤務体制を調整する。	事業所の防災計画に関してはなかなか知ってもらう機会は少ない。簡単に閲覧でき様に見やすい場所に置いてはどうか	前年度が職員の都合上、地域の防災訓練に参加することができなかったため、地域の防災訓練に参加し事業所も含め地域の防災意識を高めることができる。